

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3611610035		
法人名	医療法人 照陽会		
事業所名	笠井病院グループホーム		
所在地	徳島県阿波市阿波町元町7-1		
自己評価作成日	平成28年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、利用者や家族と円滑な関係が保てるよう努めている。利用者一人ひとりが安心して、自分らしく楽しく過ごすことができるよう努めている。また、誰でもが気軽に立ち寄っていただけるような雰囲気作りを努めている。敷地内には、同一法人の運営している医療機関があるため、連携を密にすることができ、緊急時にも迅速に対応できる体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は家庭的な雰囲気を大切にしており、利用者や職員が穏やかな雰囲気の中で暮らし続けることができるよう支援している。共用空間では、利用者と職員でオルガンや大正琴を演奏するなどしている。利用者の誕生日には、利用者と職員でケーキなどを作っている。また、家族の協力を得て、利用者一人ひとりの希望に応じた外出支援を行っている。事業所には、友人や知人、地域の住民等の来訪が頻繁にあり、積極的に地域との交流を行っている。同一法人の運営する協力医療機関と密に連携しており、利用者や家族、職員の安心に繋がっている。職員間で、それぞれの気づきや課題を共有して検討するなどし、サービスの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を提示し、職員間で共有し日々の実践につなげている。	代表者と全職員で理念について話し合っており、必要に応じて見直しも行っている。地域密着型サービスの意義や理念を利用者や家族に説明している。理念を支援の原点と捉え、日頃の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員やボランティア、近隣理美容師の訪問がある。地元の祭などに参加する事で、地域の方から声を掛けてもらったり、ホームの行事に参加してもらい交流の機会をもつようにしている。	事業所では、近隣住民から季節の花が届けられることがある。事業所の行事を行う際には、地域住民の協力を得ている。子供たちの参加もあり、日頃から双方向的な交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内の行事には、地域住民やボランティアの方に参加していただく事で交流を図っている。随時、事業所の見学も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、サービスの実施状況、行事報告、利用者の現状報告を行っている。参加者からいただいた提案は日々の運営に活かすよう努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、専門職から転倒予防の話聞く機会を設けたり、利用者の状況や行事について報告したりしている。出された意見はサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会あるごとに市町村担当者に報告、連絡、相談を行い助言していただいている。また、運営推進会議にも参加していただき、提案や助言をいただいている。	事業所で課題等が発生した際には、市担当者と連絡を取り合って相談や報告を行っている。市担当窓口にも出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関する研修を行い、安全で自由な暮らしの支援を行っている。日中は見守りを徹底し、施錠を行わず、玄関開閉時はドアチャイムで確認ができるようにし、拘束のないケアに取り組んでいる。	年1回、職員は、法人本部の開催する研修会に参加し、身体拘束の弊害について学習している。職員は専門書を読むなどして、つねに新しい情報を得るようにしている。職員間で情報を共有し、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から、言葉遣いや、対応等に気をつけている。また、職員各々のケアの振り返りを行い確認する機会を持つようにしている。高齢者虐待防止関係の研修を行い、虐待の起こらない現場作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市で開催している権利擁護や成年後見制度の研修会に参加している。現在、該当者はいないが必要時対応できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終了時には、十分な説明を行い同意を得ている。不安や疑問点は、その都度お聞きし、理解、納得を得た上で手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や表情などから思いを把握できるよう努めている。また、家族から、意見や要望を気軽に話してもらえるような雰囲気づくりを工夫している。	日頃から、職員は利用者との関わりを通じて、一人ひとりの意向や希望を把握するよう努めている。家族の来訪時には、意見等を表出しやすい雰囲気づくりを工夫している。また、家族に利用者の生活状況を電話で伝えたり、その際に希望を聞いたりにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、日頃から現場の職員とコミュニケーションを図り、職員から提案された意見に耳を傾け、検討し運営に反映させている。	代表者と管理者は、職員と話す機会を設けている。また、職員一人ひとりの得意分野を確認し、日頃の支援に活かすよう努めている。管理者と職員間でコミュニケーションを図るようにしており、職員一人ひとりの働く意識の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員とコミュニケーションをとり、個々の努力や実績等を把握し、やりがいを持って働けるよう職場の環境や条件を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者や管理者は、日頃から現場の職員とコミュニケーションを図り、職員が向上心を持って働けるよう、資格取得や研修参加への支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会があり、相互訪問や情報交換を行い、日々のケアやサービスの質が向上できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や不安をお聞きし、困り事や不安を少しでも除けるよう努めている。また、見学も随時受け付けており、本人や家族に納得していただいた上でサービスを導入するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の考えや要望を聞き、相手の立場にたって考え、どの様な対応ができるか話し合いを行っている。電話での相談も随時行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いを受け止め、お聞きした実情や要望をもとに支援を行っている。必要に応じて他のサービスの調整を行い、安心、納得したうえで利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が一緒に過ごしていく中で、喜怒哀楽を共にし、お互いの気持ちを伝え合っている。できる事はしていただき、できない事は一緒にする事で、共に支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、日頃の状況を伝え情報交換を行っている。本人が不安を感じている時には、家族と協力して支援を行えるようにし、家族間においても良好な関係が保てるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を決めず、希望に応じて、いつでも面会できるようにしている。家族や友人、地域の方が来訪しやすいと感じていただけるような雰囲気作りに努めている。	事業所では、利用者一人ひとりが馴染みの理・美容院や商店へ出かけることができるよう支援している。また、地域に暮らす友人や知人に会いに出かけることもある。事業所として、利用者の知人や友人の来訪を快く受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、利用者同士が良好な関係が保てるよう、職員が調整役となって支援している。状態変化時は、席替えを行うなどして、暮らしやすいように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず入院に至った利用者には、面会を行ったり、家族や病院関係者の方に経過を尋ねたりしている。家族からの相談ごとにも対応し経過を見守るよう努めている。			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活でのコミュニケーションや関わりから、本人や家族の思いをくみ取れるようにしている。常に話し合いを行い、思いや意向の把握に努め、本人本位に検討している。	職員は、日頃の利用者との関わりの中で意向を確認している。意志の表出が困難な利用者には、家族から生活歴を聞くようにしている。職員間で、話し合い本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で気づいた言動などを記録している。家族の方や担当されていたケアマネより情報提供を受け、これまでの暮らしの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活の様子やレクリエーションなどの様子から、心身状態や能力を把握し、職員間で情報を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から、本人や家族からの意見や情報を得るように努めている。出された意見や情報は介護計画書に反映し、利用者の状態に応じて介護計画書を作成している。	事業所では、その人らしい暮らしの実現と自立支援に向けて、利用者や家族、関係者間で話し合っており、利用者の現状に応じた介護計画書の作成に努めている。利用者の心身状況の変化に応じて計画を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに、日頃の様子や変化を記録し、職員間で共有し、状況に応じた対応ができるよう支援を行い、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から要望を聞き、本人や家族の状況に応じて買い物介助や歯科往診依頼、訪問理容など、必要と思われる支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の住民を行事に招待し交流し、運営推進会議に民生委員の方に出席していただく事で連携をとっている。地域のボランティアで訪問理容の訪問も来ていただいている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人や家族の希望を聞き、これまでのかかりつけ医との関係を築いている。家族と共に今後の医療受診、歯科受診等について検討し、選択してもらっている。	本人や家族の希望するかかりつけ医を確認し、受診を支援している。事業所では、週3回、協力医療機関の医師による訪問診療を受け入れている。また、専門医療機関等とも密に連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一法人の運営している医療機関と24時間連絡をとれる体制をとっている。医療機関との連携を密にとり、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関に対して情報提供を行っている。また、入院中はお見舞いに行ったり、家族や医療関係者と連絡をとって、退院の支援を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の関わりの中で、事業所のできる事を説明し、本人や家族の意向を確認し同意を得ている。本人や家族にとって最良の方針がとれるよう努めている。	事業所として看取りの指針を整備している。契約時の段階で、本人や家族へ終末期に関する事業所の方針等を説明し、同意を得ている。利用者の心身状況に応じて、本人や家族の意向を再確認している。かかりつけ医や関係者等とも話し合い、対応方針を共有している。本人や家族の意向に添うことができるようチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し研修を行っている。また、同一法人の医療機関と24時間連絡できる体制をとっており、迅速に対応できるように備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の立ち合いのもと同一法人の医療機関と合同で避難訓練を行っている。ホームでは緊急時持ち出し袋を準備し、玄関や居室に設置している。定期的にホーム独自でも避難訓練を行っている。	年2回、法人全体で避難訓練を行っている。また、年4回、消防署の協力を得て、水害や地震等の災害を想定した独自の訓練を行っている。災害時の備蓄品等も整備している。しかし、地域の住民等の参加や協力を得るまでには至っていない。	法人全として災害時の協力体制を構築している。事業所としても、利用者と職員で避難経路を確認するなどして災害等に備えている。今後は、地域住民等の協力を得ることができるよう、事業所の様子を伝えたり、訓練等に参加を呼びかけたりして、地域住民の協力体制の整備に向けて取り組まれない。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護や個人情報の取り扱いに関する研修会に参加している。日頃の会話の中でも本人の気持ちを大切に、言葉かけや対応を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した呼び方などを留意している。職員間で利用者の尊厳に留意したケアや声かけのあり方について話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定ができるよう声かけを行っている。意思表示が困難な方には、表情から読み取れるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日に流れはあるが、利用者一人ひとりの心身状況に配慮した上で、思い通りに過ごしていただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれの支援は、自己決定に基づいて行っている。介助が必要な方にはさりげなく手伝うようにしている。地域の理美容院と連携し散髪に来ていただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同一法人の運営している医療機関の管理栄養士の献立のもとに調理された食事を、ホームの職員が一人ひとりの状態に合わせた形態にして提供している。事業所で収穫した野菜などでおやつを作る事もある。	同一法人の運営する他サービス事業所の栄養士が献立を立てている。職員は、利用者の心身状況に応じて、食事形態を工夫したり、美味しく見えるよう見た目に配慮したりして、食事を楽しむことができるよう支援している。利用者と職員で、おやつや行事食を作ることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が栄養バランスを考えて作成している。職員は、食事摂取量、水分量を記録し、一人ひとりの状態を把握し、個々の身体状況に応じて、見守り、声かけ、介助を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には口腔体操を行っている。食後は、声かけにより、一人ひとりの状態に応じた口腔ケアの支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄チェックを行いパターンを把握している。職員は、さりげなく声かけを行い トイレへの誘導を行っている。居室にポータブルトイレを設置し使用している方もおられる。	職員は、利用者の排泄パターンを把握したうえで、プライバシーに配慮したさりげない誘導を心がけている。利用者一人ひとりがトイレで自立して排泄することができるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄や水分摂取量のチェックを行っている。日中、体操やレクリエーション、散歩等で適度に身体を動かす機会を設けたり、水分摂取の支援を行い、自然排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に応じ、ゆったりくつろいだ気分を楽しめるよう支援している。入浴が困難な方には、清拭や足浴を行い、気持ちよく過ごしていただけるよう支援を行っている。	事業所では、利用者一人ひとりの希望や心身状況に応じて入浴することができるよう支援している。入浴を拒む利用者には、声かけの方法を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体調に配慮しながら外気浴やリハビリ体操、レクリエーションを行い、夜間安眠できるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の内容を把握し、個別のケースで保管している。飲み忘れや誤薬がないよう服薬確認を行っている。また、同一法人医療機関と連携し、身体状況や症状の変化を報告し、医師や看護師に相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの身体状況に合わせ、洗濯物をたたんでいただいたり、ホームの畑でできた野菜の収穫を一緒に行ったり、収穫した食材でおやつ作りをしている。レクリエーションでは、ゲームやカラオケなど楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事で外出支援を行ったり、その方の状態に応じ、職員と一緒に買い物に出かけ気分転換を図っている。一人ひとりが、その人らしい生活ができるよう支援している。	利用者と職員で、地域のオープンガーデンに出かけて、季節の花を楽しんでいる。家族の協力を得るなどして、一人ひとりの希望する行事や場所に出かけることができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が家族様が管理されているが、ホームで管理している方には、家族様に相談の上、金銭管理票を作成し、報告を行い確認して頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じ、いつでも電話で話しができるように支援している。自分の携帯から知人や親類、県外に住む息子さんに電話している方もおられる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をテーブルに飾ったり、共有空間には季節に応じて壁飾りを変更し、季節感を味わいながら、心地よく過ごしていただけるよう支援している。	共用空間に季節の花を飾っており、季節感に配慮している。また、利用者と職員の作品なども飾っている。共有空間でオルガンや大正琴を演奏したり、利用者と職員で好みの歌を歌ったりして、居心地よく過ごすことのできる空間づくりを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の好きな場所で、自由にくつろげるスペースを設けている。利用者一人ひとりが思い思いの場所で過ごす事ができるよう努めている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使い慣れた家具等を持ち込んでいただいております。居心地よく暮らす事ができるよう支援している。	事業所では、利用者が自宅で使っていた家具等を持ち込んでもらっている。本人や家族と相談し、配置にも工夫している。各居室には災害時の非常持出袋やヘルメット等を備えるなどして、利用者の安心や安全にも配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に応じて、ベットやポータブルトイレを配置し、安全に移動ができ、自立した生活が送れるよう支援している。			